

老いるということ

使用者委員 吉田健朗

自分自身還暦が間近になり「老い」というものが他人ごとではなくなっていることを実感しはじめています。同窓会で久しぶりに会う友人と「お前老けたねー」と言い合っている自分たちも他人から見ればいいおじさんに見えることは間違いないのであろう。

若いころよく見ていたアイドルや俳優を久しぶりにテレビで見て「老けちゃったなあ」と思うものの自分も同じ年齢を重ねているのだと今更ながら思う。

巷では年相応に見られることを良しとしない方も多く、アンチエイジングの食事や運動、サプリメントなども流行っているし美容整形なども今では結構普通のことになりつつあるような気もする。

多くの哺乳類は種の保存の観点からも生殖可能な年齢を過ぎると間もなく寿命が来るものだそうで、生殖能力がなくなっても長く生き続けるのは人間だけだそうだ。

安全で栄養価の高い食べ物が十分に供給することができたり、医療の進歩、戦争など命を脅かす不安定要素が減っていることも要因ではあるのだろう。

しかしながら人間は老いてもなお生かされていることの意味があるのであろう。

おばあさん仮説というものもあるみたいでおばあさんが孫の世話をしてくれるから母は次の子供が作ることができるので、決して多産ではない人間がより多くの子供を産むためにはおばあさんは必要不可欠でそのためにおばあさんの寿命は延びているとの仮説らしい。

おばあさんに限らずおじいさんも長生きする人生100年時代にあって年を取っても尚「やりがいのある役割」を与えられることが寿命を延ばす要因となっているのであれば「老害」にならず、自分の知識や経験を次世代のために役立ててもらおうよう努めていく使命を感じながら生きていかねばとあらためて考える。